

平成29年12月定例教育委員会会議録

平成29年塩尻市教育委員会12月定例教育委員会が、平成29年12月21日、午後1時15分、塩尻総合文化センター302多目的室に招集された。

会 議 日 程

1 開 会

2 前回会議録の承認

3 教育長報告

- 報告第1号 主な行事等報告について
報告第2号 1月の行事予定等について
報告第3号 後援・共催について
報告第4号 市議会12月定例会報告について

4 議 事

5 その他

- その他第1号 平成30年度教育委員会関係予算要求主要事業について〈期間限定非公開〉

6 閉 会

○ 出席委員

教育長	山 田 富 康	教育長職務代理者	小 澤 嘉 和
委員	石 井 實	委員	林 貞 子
委員	嶋 崎 栄 子		

○ 欠席委員

なし

○ 説明のため出席した者

こども教育部こども教育担当部長（新体育館建設プロジェクトリーダー）	中 野 昭 彦	こども教育部生涯学習担当部長（市民交流センター長・図書館長）	中 野 実 佐 雄
こども教育部次長（家庭支援課長）	百 瀬 公 章	教育総務課長	太 田 文 和
こども課長	青 木 正 典	生涯学習スポーツ課長（新体育館建設プロジェクトサブリーダー）	胡 桃 慶 三
平出博物館長	中 島 伸 一	男女共同参画・人権課長	石 川 忍
市民交流センター次長（子育て支援センター所長）	赤 津 廣 子	交流支援課長	小 松 秀 樹

交流支援課市民活動担当課 山崎 浩明 図書館係長 宇治橋 多恵
長
主任学校教育指導員 黒澤 増博

- 事務局出席者
教育企画係長 横山 朝征

1 開会

山田教育長 それでは、皆さんこんにちは。ただいまから12月の定例教育委員会を開会いたします。よろしく願いいたします。

ことしも早いもので仕事納めまであと1週間となってまいりました。ちまたではすぐそのクリスマス、またお正月に向けて華やかになってまいりました。子供たちの心は冬休みも含めて、今、うきうきとしているのではないかと思います。

この1年、ここにおいでの皆様方にとってはどのような年であったでしょうか。教育委員会といたしましては、教育振興基本計画に沿った第1期3年のまとめの事業を精力的に推進し、現下の課題に向き合ってまいりました。おかげさまで多くの目に見える成果が上がりつつあるのではないかと思います。

また、ここに来てうれしいことは、児童生徒、教職員、また教育委員や事務局職員がそれぞれおむね健康でこの1年を過ごし、新たな希望を胸に新しい年を迎えられそうだということであります。1年の節目に当たりまして、皆様方に心より感謝をいたしまして次に進みます。

2 前回会議録の承認について

山田教育長 それでは、次第に従いまして2番、前回会議録の承認について事務局からお願いいたします。

横山教育企画係長 前回、11月定例教育委員会の会議録につきましては、御確認をいただいております。本会議終了後に御署名をいただきたいと思っておりますのでよろしく願いいたします。以上です。

山田教育長 よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、そのようをお願いいたします。

3 教育長報告

山田教育長 続いて3番、教育長報告に入ります。今回は、一昨日閉会いたしました市議会12月定例会の代表質問、一般質問の内容にかかわって報告をしたいと思います。市議会12月定例会では、今回も教育委員会関係の質問が何点かありました。それぞれの詳細については報告第4号で扱いますので、私からは取り上げられた課題の中から、今回は学校教育に焦点を当てて、今後の教育委員会としての基本的な考え方、構えについて考えていることを報告したいと思います。報告は5点になりますが、小学校でのプログラミング教育の必修化について、中学校の部活動と教職員の多忙化解消について、不登校児童生徒への対応について、早ね早おき朝ごはん・どくしょ市民運動の成果と今後について、5点目が、塩尻市の特徴の教育の必要性について、それぞれ簡潔に報告をしたいと思います。

小学校でのプログラミング教育の必修化につきましては、プログラミング教育という言葉だけが少しひとり歩きしてゐるのではないかなと私は感じております。学習指導要領には、児童がプログラ

ミングを体験しながらコンピューターに意図した処理を行わせるために必要な論理的思考力を身につけるための学習活動というように記述されております。本市では、ICT活用教育研究推進委員会がありますので、その会を中心に研究し、具体的なカリキュラムを編成して施行していくとともに、論理的思考力の育成は、各教科の深く学ぶ学習を通して進めていく必要がありますので、こうした視点での質の高い学習活動が展開できるよう、今後も現場を支援してまいりたいと思います。

次に中学校の部活動ですが、心身の成長、楽しい学校生活と仲間づくり、生涯に及ぶ健康づくり、競技者の育成などの意義があります。また、生きる力を育むための重要な活動の一つというように捉えております。しかし、スポーツ庁の調査を詳細に見てまいりますと、生徒の中にも、また教職員の中にも負担感があることは事実であります。各中学校の部活動運営委員会において各校の活動状況をしっかりと確認しながら、平成26年7月に策定した市立中学校の運動部活動の取り組みの方針に沿った適正な活動となるよう継続して配慮をしてまいりたいと思います。また、文科省も予算づけを考えている部活動外部指導者のあり方についても、今後検討をしてまいりたいと思います。

続いて、不登校児童生徒への対応についてです。本市では、教育委員会の不登校支援チームと学校の不登校支援チームが連携し、新たな不登校を生み出さない取り組みを進めております。しかしながら、増加の傾向に確かな歯止めがまだかかってはいません。結果として、不登校の状況になった場合の支援は、支援者が不登校の多様な要因や背景を丁寧にひもとき、時間をかけた対応によって信頼関係を築きながら要因や背景に継続して働きかけ、児童生徒の内にみずからの力で登校することのできるエネルギーを高めなければなりません。したがって、容易なことではないわけであり、日ごろからの細やかな観察、理解と少しのシグナルも見落とさないよう適切に行う初期対応によって、不登校という結果に至らせない支援に一層心がけてまいりたいと思います。

次に、早ね早おき朝ごはん・どくしょ市民運動の成果です。学力・学習状況調査から見ると、例年本市の児童生徒の生活習慣や読書活動に関する結果はおおむね良好であるので、一定の成果が上がっているのではないかと考えております。しかし、これはあくまで全体の傾向であります。個々に目を向けていくと、生活習慣についても学習・読書習慣についても心配になる子供たちは多く存在していることも事実です。私たちは、一人一人の育ちに丁寧に向き合う教育を目指しているわけであり、全体とともに個にしっかりと視線を向けていくことが必要であるかと思っております。特にメディアとの長時間にわたる接触が、睡眠時間と睡眠の質に大きく影響していることや、その睡眠が成長や記憶を制御していること、さらには学習や読書の時間だけでなく、家族団らんの時間まで圧迫する傾向があることなどから、一人一人が主体的な家庭での生活づくりを進められるよう、本人、保護者を巻き込んだ啓発的、また連携的な市民運動を展開していく必要があると考えております。

最後に、塩尻市の特徴の教育の必要性について触れます。本市では、全校コミュニティ・スクールに指定しての2年目の実践が展開されております。これまで地域の教育力を学校教育に生かすことはもちろん、子供たちが地域に出て貢献するなど、学校と地域が知恵と力を合わせた地域とともにある学校づくりの取り組みが積極的に行われてきております。こうした取り組みによって、子供たちの地域理解と地域に対する愛着は確かに高まってきております。郷土を知り、誇りと愛着を持った人の育成は、本市教育振興基本計画の中で位置づけた育てたい人間像であります。今、各学校でまさに編成を進めている社会に開かれた教育課程を通して、各学校は何に焦点を当て、限られた時間の中でどう深い学びにいきなり、どのような力に結びつけていったらよいのか、校長先生をリーダーとする教職員の教科横断的で学校・地域協働型のカリキュラム編成に期待するところは大有りあります。あわせてキャリア教育につながる活動など、地域からの積極的なアプローチについても期待をしてまいりたいと思います。

冊子の主な行事報告に関しては、今回は触れられませんでしたけれども、見ていただいたとおり充実した取り組みが進められております。各委員さん、それぞれ参加された行事や事業についてお気づきの点ありましたら、ぜひ後ほど発言をいただきたいと思っております。以上で、私からは12月定例会主な総括的な報告をさせていただきました。以上であります。

それでは、今の報告に対しまして御質問等ありましたらお願いいたします。

石井委員 私自身、この1年間の活動状況とかっていうものを考えた場合に、しっかりとした活動ができたかどうかという反省が残るわけですが、プログラミングっていうことになると、これは先生方の御指導のもとにということ、各学校でもってそういうことでやられてると思えますけれども、部活動につきましてもですね、これは重要であると言いつつも、果たして県でもって出した要綱をそのままのみにしてやっているのではないかと、今までそれに対しての塩尻市の教育委員会として、こういったことについてどういうことを考えているかというようなことを県に上げていったことはあるかどうかということ、そこら辺の反省があります。

それから、不登校につきましても話もありましたけれども、不登校が何人あるとかこういうことがあるとかっていうようなことを、毎月毎月係の職員の皆さん方からお聞きしておりますけれども、私どもは、なかなかそれに対する援助って言いますか助言もできない。ただ、そうかというようなことだけで聞いてしまっているということ、それでいいのか。教育委員会委員っていいのかどうかということが気にかかっております。

そんなこととか、早ね早おきにつきましても、これ、マンネリ化をできてしまっていて、実際に各家庭でもってこれについて取り組んでもらえるような、私たちが啓蒙活動ができていけるかどうかというようなことを考えてみますと、私としては教育委員ってこれでいいのかなっていうようなことを、ちょっとこのごろ考えるようになりましてけれども、これは今すぐ教育長先生から御返答をいただく問題ではありませんけれども、これからいろいろと私は、そういうことについて考えていかなければならないのではないかなというふうに、1年間の思いと言いますか考えでございますので、一応ここでもって発表だけでもさせていただきます。以上です。

山田教育長 これは、いいですね。

石井委員 はい。

山田教育長 今の石井委員さんに関連するんですけれども、私たちが例えば部活動なり不登校なり子供たちの生活習慣なりというものについて、直に感じる事ができる機会がありますよね。それは、例えばこんちは教育委員会のときとか学校訪問のときとか、または子供たちが参加するさまざまな行事がそれになると思います。そのときに子供たちの発達の状況はどうか、挨拶の状況はどうか、それから学習の状況はどうか、また、学校へ来て学習しているときに何か不安や、先生との関係を見たときに、その関係に心配はないのか、そういう視点で見ていただいて、そのときに発言いただくということが、一番大事なポイントになると思います。ですから、これから学校訪問、行事等のときにお互いに課題を持って、私は子供たちの学びの状況に視点を当てます、私は子供たちの表情に視点を当てて、満足した学校生活を送っているか見ますというように視点を当てて見て、そしてお互いに学校訪問の中や、こんちは教育委員会終わったところ、また、協議会等を出し合って、どう学校現場または教育現場を支援したらよいかということを考えることがいいのではないかと聞いていて思いました。よろしいでしょうか。

石井委員 そういう感想だけでよろしいわけですか。

山田教育長 そのことは事務局と共有をするわけですので、事務局はそこで聞いて、では、今、やっている取り組み、例えば不登校であれば教育委員会のチームのあり方とか学校のチームとの連携のあり方とか、それから実際に休んでいる子供たちの状況の把握の仕方とか、そういうところに生か

されていくわけです。直接教育委員の皆さんが、こうだからこういう施策を進めましょうというのは、なかなか言えないと思うんですね。教育委員の皆さんが自らの視点で感じ取ったことについて意見を出すことによって、事務局のほうでそれをより具体的な施策に展開していくということが必要になるのではないかと思います。

石井委員 そういう意見を出しっぱなしにして、事務局はそれに対して対応していかなくちゃいけないってこと、かなりまた余計負担なことになるんじゃないか。そこら辺はやっぱり事務局で解釈することであって、我々委員としては解釈するって言うか、感じたことだけを話せばいいという会合でいいわけですか。

山田教育長 感じたことプラス、ぜひこうしてほしいとか、ここはこう改善してほしいとか、具体的にまた建設的に意見を述べていただければ、それが一番ありがたいのではないかと思います。事務局のメンバーは、みんな優れたメンバーですので、その中から本当に課題のあることを摘出して、何をどう展開していかなくちゃいけないかとはしっかりと考えてまた提案いただけると思いますので。

石井委員 例えば不登校とかどっか行っちゃうだとかというようなものに対して、非常に事務局としては頭が痛くて夜も寝れないでいるというような状態であろうかと思うんですね。その辺、私たちは言いっ放しでもってそれでいいのかなというふうには感じたもんですから、お話をしたところです。

山田教育長 ありがとうございます。今、それぞれ心の中で考えたことがあると思いますので、後ほど全部行事関係の終わったところで、そこで改めて進めましょうか。

小澤教育長職務代理者 感想だけですが、石井さんはもう8年目になるんです。でも、いつでもフレッシュな気持ちで原点に立ち返る。その姿勢は、私たちも学ばなくちゃいけないなことでしょ。今、教育長が5つの報告をしてくれました。それについて全て教育委員のほうでコメントできるとか示唆できるとか、何か持つってことは非常に難しい。でも、それに私たち自身が心をとめて目を配って感じたことを、この場に持ってきて言う。その意見交換というのは、事務局をも触発するものになってくると思います。現場の中で感じたことをここで出し合うってことは大事なことであるし、また、いろいろな行事に出たときに、市民の声は聞こえてきます。そういうのを持ってきて出し合うってことも大事だと思います。

教育長が3番目に不登校のことを言いました。私自身、高ボッチ教室に顔を出しても、もう10年たてば、ものが言えない。現実がよくわからないからです。ものは言えないんだけど、その現状を見るってことはでき、自分にとっての刺激になる。こうやって、何か考えるもとのを与えてもらえる。やっぱり現場へ顔を出すってことは大事なことだと、そんなふうにも今、考えます。石井さんのそのもどかしさっていうかは、よくわかります。

石井委員 私がね、今まで体育指導員では自分でやっていた人間だもんだから、人任せでもってそういうことで終わるっていうだけでいいのかなっていうような。そうかといって私たちが直接飛びこんでいってどんどんとはできる問題ではないと思うけども、やっぱりそこら辺は共有していかなくちゃいけないんじゃないかなというふうにつくづく思ったもんですからね。よその教育委員会がどうなってるかはわかりませんが、ただ、その話が出るだけでもいいのかな、それでほっておいていいのかなっていう気がしたもんですから、すみません。その辺はやっぱり事務局側のサイドとして、もうちょっと教育委員ならもうちょっとこれくらいにしてもらいたいとかアドバイスしてもらいたいとかっていうような御意見があればね。

山田教育長 恐らく、今は学校教育については、私、報告しましたけれども、教育委員会側が守備範囲にしているところは、ぐっと広いですよ。小さい子供たちから、それから社会教育、大人まで

入りますし、たくさんの課題もあるのも事実なので、いつも私たちが、今、何が課題になっているかっていうことをお互いに共有して、じゃあその課題について改善するためにはどうしたらいいのかっていう、そういう視点で学校を見る、社会教育のさまざまな事業、行事を見る、そしてそこでお互いに意見を出し合って、よりよい施策に展開していくためにはどういう視点が必要かということも、また私たちも、それから事務局も一緒に考えていくってことをこれからも積極的に進めてまいりたいと思いました。

石井委員 何かきょう、私は来るときうんとむなしい思いをしていました。俺たち行って話をしたって別に何もやってないじゃないかなっていうような。

山田教育長 変わっていないことは全くないと思いますので。

石井委員 それは、そうでしょう。

山田教育長 それでは、少し長くなりましたが、次に進みます。

○報告第1号 主な行事等報告について

山田教育長 続いて、では報告第1号、主な行事等報告についてお願いいたします。資料の1ページから7ページまでです。それでは事務局より主要な行事について説明をお願いいたします。

中島平出博物館長 お手元のこども教育部行事報告の1ページ、上の段をごらんください。9月8日から2カ月半に及び「柳田国男と真澄遊覧記展」を本洗馬歴史の里資料館で開催いたしました。今回、特に「東筑摩郡誌別編」の大正から昭和の初期にかけて民俗資料調査を全国に先駆けて実施され、その取り組みの中での柳田国男との関係についての展示をさせていただきました。特に柳田国男と地元の住民の皆さんとの書籍、手紙等を通じてのやりとり等を確認することができ、新たな発見と言いますか驚きでありました。洗馬地域には大変そういった古文書等歴史的資料がまだまだ埋もれているものがあるように思われます。今後も引き続き調査活動の成果をまとめながら、展示会等を開催してまいりたいと思います。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

百瀬家庭支援課長 それでは、2ページ目の中段になります。11月22日水曜日に元気っ子研修会を開催いたしました。こちらの研修会は、愛着障害の理解と支援、愛着修復プログラムによる関係性支援の実践ということで、講師は和歌山大学教育学部教授の米澤好史先生に、発達障がいと愛着障がいの違い、またその特徴、支援の手だてなどについて御講演をいただき、夕方6時からの研修会だったわけでありますけども、保育園、学校関係者等70名が参加をしまして理解を深めることができました。

また、この研修会の前段で、小学校を訪問、参観をしていただきまして、コンサルテーションをしていただき、さまざまな形で御助言をいただき、クラス運営また学校運営に生かしていけるような助言をいただいたところでございます。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

胡桃生涯学習スポーツ課長 続きまして、資料おめくりいただきまして3ページの上段をごらんください。11月25日、第31回全国短歌フォーラム in 塩尻「学生の部」を開催いたしました。成果としましては、素直な心が詠まれている子供たちの作品を通して短歌の魅力を発信することができたというように考えております。県外中学校の投稿数が増加しており、短歌を取り入れた学校教育が推進され、発表の場として全国でも有数の短歌大会として認知されてきていると感じております。参考までに、投稿の状況につきましては、投稿数は前年比3、103首の増、投稿いただいた学校の数は前年比98校の増という形で、年々増加しております。全国にこの大会が認知されてきているということを実感できる数値ではないかと感じております。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

太田教育総務課長 続きまして、同じく3ページの中段になります。11月26日日曜日に開催しました、こども未来塾中学生リーダー研修につきましては、現在中学2年生で翌年度の生徒会役員や役員候補者が参加する本年度最後のリーダー研修でございます。塩嶺体験学習の家を活用しまして中学校生徒会役員など学校でリーダー的な役割の生徒対象に、ゲーム等通してリーダーシップの実践方法等を習得するもので、生徒26人が参加しております。最初はなかなか話もできなかった生徒たちですが、他校の生徒との自己紹介を通して、お互いを知りながら打ち解けた様子も見られました。研修を通してリーダーとしての意識づけを行うとともに情報交換や交流を行い、リーダーとしての視野を広げることができました。以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

石川男女共同参画・人権課長 4ページの最初でございます。12月9日の土曜日にレザンホール中ホールで開催をいたしました豊かな心を育む市民の集いでございます。参加者数は240名ということで、大勢の方にお出でをいただきました。内容につきましては、人権週間にあわせた催しということで開催してございまして、内容的には中学生の人権作文コンテストの表彰及び朗読、4年に一度の人権の花運動実施校の感謝状贈呈など、あと、講演会といたしまして「ダウン症の子どもを育てて学んだこと」ということで金澤泰子さんからの講演をいただきました。また当日、サプライズ的になりましたけれども、娘さんの翔子さんもお出でになりまして、それぞれ講演をいただきました。参加された皆さんからは、逆境から学ぶことのすばらしさを教えられたとかですね、真の優しさを知ったとか、また、ダウン症のお子さんを持つお母さんからは、翔子さんの前向きな姿に感銘を受けたといったような、それぞれいい意見をいただきました。以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

宇治橋図書館係長 図書館ですが、資料の6ページ中段をごらんください。11月30日木曜日にレザンホール課外活動コンサートを行いました。図書館1階森のコートで、ロシア出身のバリトン歌手ヴィタリ・ユシュマノフさんの豊かなバリトンが披露されました。読書推進アドバイザーによる翻訳の朗読や、ピアニストの演奏が花を添え、音楽家と参加者の距離を近づける機会となりました。文化振興事業団が主催する12月2日土曜日のユシュマノフさんのコンサートのイベントとして実施し、レザンホールとの連携が図られました。

前後しますが、6ページ上段と7ページの上段です。11月26日と12月3日の各日曜日は、本の寺子屋が開催されました。11月26日には、映画館東座とのタイアップ企画で映画監督の原田真人さんをお迎えし、映画への思いを語っていただきました。7ページ上段ですが、12月3日には地域の魅力を発信する講座、地域文化サロンを行いました。「信州人虫を食べる」の著者田下昌志さんと丸山潔さんをお迎えし、蜂の子やザザムシなど信州の伝統的な昆虫食を紹介していただきました。また、フレンチレストランの友森さんの協力により、昆虫食の創作料理も提供し大変好評でした。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。

小松交流支援課長 では、最後になります。こどもだけの街こどもしおじりについて報告をいたします。子供たちが主体となって、街をつくり仕事や納税、商品、選挙の仕組みなどを学ぶ第2回こどもしおじりが12月の9、10の両日えんぱーくで開催されました。ことしは100人の公募に対し161人の応募がありまして、抽選の結果139人の参加となりました。子供たちが働くブースは、美容院、新聞社、税務署、印刷屋、放送局、銀行、文房具屋さんなど29のブースがありました。ことしは子供たちからの提案で、新たに郵便局やコンビニなどが開業をしました。こどもしおじりでは、最初に活動通貨の100じりいを受け取り、参加税5じりいと働いた後収入の10%を

こどもしおじり税務署へ納める仕組みとなっております。余ったじりいをお友達に譲りたいが税金かかるのか、贈与税の質問を松本の税務署の職員の方にしていましたら、慌ててスマホで調べるシーンもございました。2日目は、市議会議員選挙が行われ、3人の定員に対し6人が立候補し、公約として市民の笑顔が続くこどもしおじり、あるいは、誰もがけがしない平和な街、また、税金を無駄にしないまちづくりなどの公約を掲げ、元気な選挙戦が行われました。ことしの投票率は88.4%と昨年の77%を大幅に上回り、市民の選挙意識の高さを感じました。議員の任期は2年、新たに3人が加わり、こども市長と議員6人によるまちづくり活動が始まりました。以上です。

山田教育長 ありがとうございます。それでは、ただいまの報告について委員の皆さんから質疑、御意見ありましたらお願いをいたします。

林委員 今、見ますと12月2日のえんぱーくクリスマス2017の参加者とか、こどもしおじりの方も、いろいろ新しいアイデアが出てくるということ、皆さんがとても楽しみに参加してくださっているようなので、とてもうれしく思います。

それと、人権学習の金澤泰子さんの講演のことで一言感想を言いたいと思います。出産後二十歳になるまで、ダウン症のお子さんを育て上げたということで、その間に御主人も亡くなられてしまい、悶々とした時間の流れを本当に赤裸々にお話ししてくださって、私自身、自分の子供の成長を感じながらも、涙を抑えることができませんでした。そして二十歳から彼女が書家として自立したってということが、本当にうれしく思いました。それでノリノリでマイケルジャクソンを踊ってくれた翔子さんの明るさに本当に救われた気がしました。とてもいい会だったと思いました。

それとあともう一点ですけれども、長野県の信州の昆虫食という企画ですけれども、蜂の子とかザザムシとか蚕とかイナゴとかいうのは自分たちも食べたことがあるので、味の想像は簡単にできるんですけれども、これらがフレンチになるという創作料理について、一体どんな料理が出てきたのかお聞きしたいです。

宇治橋図書館係長 今回の創作料理の内容は、まずイナゴを使ったハンバーグ、それからザザムシのオムレツ、餃子の皮で包んで揚げた蚕のさなぎ、デザートとして蜂蜜と蜂の子を合わせた親子ムースの4種が盛りつけられたお皿が出てまいりました。

林委員 写真に撮ってあって、えんぱーくに飾ってくださいますか。

宇治橋図書館係長 市民タイムスにも掲載をしていただきましたが、そちらには写真が載っています。手元にちょうど新聞記事を持ってきているんですが、よろしければごらんください。

林委員 そうですか。じゃあ、後で見せていただきます。

宇治橋図書館係長 あと、facebookにも。

小松交流支援課長 図書館のホームページにも。

林委員 そうですか。わかりました。じゃあ、そちらのほうで拝見させていただきます。勉強不足ですみません。

宇治橋図書館係長 ありがとうございます。

山田教育長 私、参加させていただいて。

林委員 食べましたか。

山田教育長 食べましたけど。

林委員 おいしかったですか。

山田教育長 私の5人のテーブルで、まずいとか気持ち悪いとかって言った人は全くなくて、「へえ、おいしいよね、おいしいよね」皆さんそう言っておりました。松本から来たという親子の方がおられましてね、「えっ、おいしいじゃんこれ」と言って食べておりましたので。少しカルチャーショックを受けた方もおられるかなと思いましたが、とてもいい企画だったなと思います。

林委員 そうですね。ありがとうございました。

山田教育長 では、ほかにかがでしょうか。

石井委員 ダウン症の話が出たんですけれども、これだけ医学が発達してもダウン症っていうものを避けられるってことはできないですか。

林委員 できません。

石井委員 要するに、妊娠期間中にわかったとか妊娠前にわかるとか、そういったことができないかになっていうふうに不思議に思ったわけですけど。私のところへお手伝いに来てくれているおばさんの子供がダウン症でしてね、ちょっと一度私、かわいそうだねって言ったら、そんな石井さんかわいそうだと思うのかって言われたんで、かわいそうっていう発言はまずいなと思って反省したわけなんですけど、これだけ医学が発達してくれば、何かそこら辺でもって防げる方法は、皆さん方ドクターでないんであれでしょうけども。そういったことは聞いたことないわけですね。

山田教育長 このダウン症については。

胡桃生涯学習スポーツ課長 これ、オフレコになるかどうかはありますけれども、これは実体験の話となりますが。私の妻は出産時に高齢出産でありました。高齢になればなるほどやっぱりそのリスクは高くなるという、どうしても障害を持つ子どもを妊娠する可能性が高いということを妊娠初期のころに担当医から告げられました。現在も、羊水の染色体を調べることによって、ある程度のところまで胎児がどういう状況かがわかるそうです。でも、それを妻が医師に相談したときに、「じゃあ胡桃さん、もし異常があったと分かった時に、あなたはどうされるんですか？」って言われたときに、それはナンセンスじゃないのかっていうことを投げかけられ、当時はその検査をしようかどうか、夫婦で話をしましたでしかし、やはり授かりものっていうところが大変大きかったものですから、私たち夫婦は検査をせず、無事、俗に言う五体満足な子供が授かりましたけれども、やはり世の中には妊娠初期で状態がわかってしまうので、どうしてもそれを悪い言葉で言うと排除してしまうっていう風潮が、現実にあるというふうに聞いています。なかなかその辺で、ダウン症のお子さんを持つ方々に対して、どうしても私たちは今、石井委員さんおっしゃるようなかわいそうというような意識を持ってしまいますが、逆に、そういった親御さんたちは、むしろうれしいというような形で接しているってことを、私も何人かのママ友からも聞いていますので、そういったところでなかなか重い問題かなということ自身として感じた次第です。

石井委員 貴重な意見ありがとうございました。何かそういう手当てができるんじゃないかなというようなことを考えてみた場合に、そういう子供を出産する前に何とかがってようなこととか、やっぱり夫婦間の問題において難しいでしょうね。それは健全なお母さんたちだって。

林委員 私は実際、羊水検査をしました。それであの中で泰子さんがおっしゃっていた、お医者様は性別は教えてくださらないんですが、そのかわり最後のところの染色体が何本あるのかを見せてくれます。ダウン症の場合1本多いのです。染色体が1本多いことが何かその、泰子さんは何かすばらしいものを授かったとおっしゃったときに、私はすごくそれが感動的でした。私は、もしダウン症と判断された場合おろすことを覚悟していました。だからその行為に対する罪を自分は、仕方がないっていうふうに考えていたので、あえて出産して、それでこういうふうに自立させて頑張っていってらっしゃる泰子さんと、その明るい翔子さんの存在は本当に私にとっても、生きることのすばらしさ意味、そういうものの大切さを痛感しました。

石井委員 非常に難しい。

林委員 そうなんです。そこは人間の命ということは非常に難しいことで、答えがあるわけじゃないんですよ。家庭、家庭で考え方が違うことなので、何とも言えない本当に大きな問題だと思います。今は、ちょっといろいろな病気がある方は、その保険でそういう羊水検査みたいなものも可能だっ

ていうような話も聞いてますので、いろいろやっぱり医療が進んでいることで、いい時代にはなっ
てきているように思います。

石井委員 そうすると、これからの妊婦の指導っていうことについては、そこら辺も参考になるかな。
すみません。

山田教育長 いずれにしてもダウン症、これは染色体の問題なので、それを医学的に何か薬を飲めば
その染色体異常が出ないっていうことは今のところではあり得ないわけですので、発達障害と言わ
れるようなものと同じように、あるパーセンテージではどうしてもダウン症の子供たちっていうの
は産まれてくるのではないかなというように思って。私たちが、先ほど林委員さんが言われたよう
に、夫婦としてどう向き合うかと同時に、社会としてどう向き合うか。そうした子供たちをどう私
たちが受けとめて受け入れて、そしてその子たちの、この間の翔子さんのように本当にその誇らし
く自立するものを市としても一人一人の育ちをしっかりと支えていくっていう、そういうことではな
いかなと思いますので。

石井委員 何しろそういう環境をつくるってほうが大事だと。すみません、ちょっとあの講演聞いて、
ちょっとこう考えたって言うか思いついたもんですから。

山田委員長 ありがとうございます。

小澤教育長職務代理者 感想であります。今月も新たな企画だとか、あるいはなじみのものに対して
はリニューアルをして、確かな実績を積んでこられていることがわかります。敬意を表したいと思
います。私たちも実際にすべて参加することはできないわけでありましてけれども、新聞等々を通じ
て、その雰囲気をつかもうとしております。

さて、今回、市教委じゃなく、県教委主催の「学社連携フォーラム」が12月2日にあつたわけ
であります。ここへ参加しての感想であります。テーマは「コミュニティ・スクールの現状と課題」
こういうことであります。中信地区内の全ての学校、市教委関係者、PTAそれからコミュニ
ティ関係の方々総勢500名です。県の総合センターの講堂はほぼいっぱい、大盛況の集会であつた
わけであります。お互いに各市町村教委の報告をし合ったわけでありましてけれども、学校関係の教
職員からはコミュニティ・スクール展開上の悩み、あるいは戸惑い、あるいはじくじたる思い、こ
ういうものが多数出されました。一方、コミュニティにかかわる地域の方々からは、そのおもしろ
さ、夢、ドリーム、こういうものが発表され、両者に大きな差があるなということに改めて感じま
した。だからこの2つを、これからどうやってこの溝を、埋め狭めていくか、これが各市町村教委
の課題だろうと、こんなことをまず思いました。

それで、当日の参加者をちょっと見てみますと、学校、地域の人、それから保護者、それぞれ均
等に名前は載っておりました。さて、塩尻市を見るわけであります。塩尻市の場合には学校運営委
員、コーディネーター、いわゆる動員っていうのかな、そういう方々が主だったような気がして、
私が一番残念に思ったのは一般教職員がほとんどなし。これを見たときに、コミュニティ・スク
ールに対する一般教職員の方々の熱意はどうなっているだろう、意識はどうなんだろうという
ことを思ったわけであります。また挙手をして発言する中にも、塩尻市の一般教職員の方々が
発言する機会はなかったということもあります。さらには、コミュニティ・スクール推進の鍵は
校長だ、校長だと、いろいろなところでしかるべき立場の人が言うわけですね。校長の熱意
いかんだよというわけですね。当日、我が塩尻も校長が出てきているのは少ない。ほとん
どないということを見ると、なぜそうなっているのかなということ、もう1回考
えてみなくちゃいけない、なんてことも思ったわけですね。

希望を言えば、来年1月に市民コミュニティ・スクールの市民集会があるわけであり
ましてけれども、そこにどういった方々が参加して下さるか。願わくば、学校関係、
一般教職員の者たちが自主

的、自発的に出てきてくれることを今のところは祈っております。以上が感想であります。

山田教育長 それでは、感想ということでいいでしょうか。

小澤教育長職務代理者 はい。

山田教育長 ありがとうございます。

石井委員 時間、いいですか。

山田教育長 いいですよ。

石井委員 コミュニティ・スクールについてですけれども、小学校1年、2年、3年生はスケートをやるわけですね。4年、5年、6年となるとスキーをやる。それで、スケート教室のことで私のところへ依頼がありまして、指導者を見つけてくれないかということで、私も前にやってたもんですから、じゃあ、私がやってたときの連中3人ぐらい連れていきましょうと言って約束をしたわけですけれども、よく話を聞いてみましたら、インストラクターを6人頼んだと。500円ずつ取ると3万円。でも、インストラクターも頼んだときに私たちが行ってインストラクター以上のことをやっちゃまずいなと思ったもんですから、そこら辺をよく話をしたら、靴を履かせてもらうだけでもいいからってというようなことだったわけです。私はスケート靴を履かせてやるのは結構だと思うけれども、中にはオーストラリアまで行った選手がいますので、それがインストラクターの手前、なんかスケート靴を履かせてやるだけではあれかな、なんて思ったり、県大会出たりなんかした子供でしたので、それももう50代ですけども、その連中に、お前たちは滑るよりも靴を履かせてやれってことはちょっと言いにくいなと思ったし、よくよく聞いてみたら、岡谷までは自分の車で行けど、バスへは乗れないと。

それから、そんなら私の車へみんな乗っけて行きますっていう話をしたんだけど、昼食が絡みますね。お願いしてただでやってもらうのに、じゃあ、いいや、私が御飯ぐらい出してやればいいかな、なんて思ったけども、どうもそれもおかしな話だなと思って、それとともにインストラクターの邪魔するようじゃいけないと思って私の頼んだの全部断りました。そこら辺の兼ね合いっていうのはどういうものかな、なんて思って、ちょっと今、考えているんですけど、今度5年、6年のスキーの場合にどうしようかな、なんて思っているんですけども。それはあれかね、やっぱり弁当持ちで行かなきゃまずいことなのかね。指導者としてお願いするのに、例えば市役所の仕事を休んで行けてことになっちゃう。農協の仕事休んで行けど。その場合に交通費も出ないよ、弁当代も出ないよっていうことになると、お願いするほうもしにくいので、いっそのこと、じゃあ、6人もインストラクター頼んであるならいいだろうということで私は断りましたけど。

やっぱりそこら辺の問題は、コミュニティ・スクールの場合残ってくるんじゃないかなと思うし、これからのそういった場合のコミュニティ・スクールのあり方っていうのはどういうぐあいに進めればいいのか、なんてこと私は考えているわけなんですけどね。遠足とか何とかっていうのはおにぎり持って一緒に行けばいいかもしれんけど。一つ問題に残りましたので、こんなお話が出ましたという。

小澤教育長職務代理者 ちょっといいですか。その窓口になるのはコーディネーターですね。各学校でイベントや行事があると、えてしてこういうような悩みが起こる。こういうお手伝いをしてほしいという、そういうことをコーディネーターに告げるわけです。

石井委員 それは告げられないでね。

小澤教育長職務代理者 そこがちょっと疑問です。石井さんのとこへストレートに来たということでしょうか。

石井委員 それはコーディネーター入りませんというのがね。

小澤教育長職務代理者 そこはどういうふうに行き違ったのか、ちょっとわからないです。そこを整

理し直したらいかがでしょう。窓口一本化でうまくいくと思います。

石井委員 だから、私がこし行ってみて、それでどういうぐあい見て、インストラクターを頼まなきゃ頼まないでいいんだけど、頼まないとね、今度ね、靴を借りたりね、用具を借りるにね、なかなか面倒になるかなと。

山田教育長 今の話聞いていると、やはりその学校の行事を進める立場の者と、それから石井さんが頼まれて石井さんがチームとして支援をするボランティアとの、中間の意思疎通ができなかったということですね。そのところがコミュニティ・スクールでは一番大事なポイントなので、今度は、学校運営協議会等でそうしたことを話題にさせていただく必要があると思います。その上で、じゃあ、うちのコミュニティ・スクールはこういう点についてはどのように改善していくのか、また、有償ボランティアと無償ボランティアはどう考えるのかなどといったことも含めて話題にさせていただくことがいいのかなと、話を聞いていて思いました。

石井委員 これは、初めからそういうことだったら、じゃあ、3万円予算があつたら3万円はそのお手伝いする連中に昼食を出してもらいたいっていうような話をすればいいのか。そこまでコーディネーターにさせちゃいけないのか。あくまでも弁当持ちで行かなきゃいけないのか、交通費も実費で行かなきゃいけない。

山田教育長 その打ち合わせだと思うんですけどね。

石井委員 こういう例えば3万円あれば何とかそういうことはできるんだけど、そのお金も使ってもいいかどうかでことになる。それは各個人から集めたものだと思うんだけどね。ボランティアの食事料とかスケートの借料はどうしよう、非常にそこら辺が難しいなど、やっぱり学校でほしいなって思うこと以外はやらないほうがいいかな。

林委員 それは原則ですよ。

山田教育長 私、先ほど教育長報告のところで申し上げましたとおりに、これから社会に開かれた教育課程を学校が編成していくことは、新しい学習指導要領で求められていることです。ですから、学校とそれから地域が、例えばスケート教室という行事について子供たちにどのような力をつけるのか、そのためにはプロのインストラクターを頼むのか、地元のOB、地元でスケートをやってた経験者を頼むのか、そういうことを学校の中できちんと協議をする必要があると思います。その上で、コーディネーターを通じて、インストラクターに頼むのであれば、スケート場のインストラクターに頼むのではなくて、インストラクターであるので地域とのつながりを深めるためには先輩のスケート指導者を頼むことが考えられます。そして頼むについては、じゃあ昼食はどうする、交通費はどうする、それから謝礼はどうする、そういうことをきちんと相談していくことが必要だと思います。そのところをこれからのコミュニティ・スクールではきちんとやっていかないと、社会に開かれた教育課程はなかなか編成できないのではないかなと思います。今の点も含めてこれからのコミュニティ・スクールの展開に生かしていきたいと思いますので、よろしく願います。

石井委員 要するに事前からきちんとした計画なりが必要だなと思います。

山田教育長 いいですかね、この件について。

石井委員 はい。

山田教育長 ほかのことでいいですか。

嶋崎委員 12月9、10日のこどもしおじりの事業なんですけれども、とてもたくさんの子供たちが参加したようなんですけど、参加したのは大体塩尻市の小学生が多いんでしょうか。

小松交流支援課長 市内112名、市外27名、松本市、安曇野市、諏訪市、岡谷市、朝日村、辰野町などからも来ています。

嶋崎委員 すみません。それで2日間続けてやっていると思うんですけども、2日間やるメリット

というかそういうものは何になる。どういうことがあるのか教えていただきたいです。

小松交流支援課長 実際10時から16時まで2日間やりまして、いろんな仕事を学ぶキャリア教育も含めたり、また、まちづくりということで選挙を体験して、地域の街を盛り上げるというような体験もしてもらいたいということで、2日間かかってます。以上です。

山田教育長 いいですか。

嶋崎委員 いいです。ありがとうございます。

山田教育長 あとはよろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 ほかにないようですので先に進めさせていただきます。

○報告第2号 1月の行事予定等について

山田教育長 続いて報告第2号、1月の行事予定について冊子8ページ、ごらんください。

まず4日、新年祝賀交歓会、これは全員となっておりますけれども、多分全員に御招待があるかと思しますので、皆様の御出席をお願いいたします。それから7日の成人式、これにつきましては全員の出席をお願いいたします。25日、定例教育委員会があります。また、この日に教育委員会の新年会を開催したいと思しますので、よろしくをお願いいたします。次に27日、先ほども話題になりましたが、塩尻市コミュニティ・スクールの市民集会がありますので、できる限り御参加いただき、状況を確認いただければと思います。最終日31日、こんには教育委員会が会場を宗賀小で行われますので、全員の参加をお願いいたします。また、この予定表にはありませんけれども、11日に塩尻西部中の諸表簿・施設等点検がありますので、ぜひ授業参観をしていただいて、先ほどの課題ではありませんけれども、子供たち、先生方の様子を見ていただければありがたいと思います。

行事予定表について御質問ありましたら、お出しください。よろしいでしょうか。

小澤教育長職務代理者 一点いいですか。1月27日のところを見ていただくと、2つの大きな行事が入っております。ともに教育委員会が後援なり主催なりをしているわけでありまして。こういう大きなイベントに関しては、分散するとか日程調整をするとか、そういうことはできないものなのかどうかお聞きしたいと思います。

山田教育長 この2事業いかがでしょうか。

太田教育総務課長 そうですね。たまたま時間がずれているというところではあるんですけども、その辺では支障がないのかなというのが私の率直な考えです。ただ、やはり大きな行事をバッティングさせないように工夫していかなければならないとは思っております。ただ会場の都合等、どうしてもついて回るものがございますので、行事予定等確認しながら検討させていただきたいと思っております。以上です。

石井委員 実はこの日私、両方なんですけれども、出欠席については講演会だけってということで、あとはバツにしてありますけれども、初代私ですので、どうも懇親会も抜けるっておかしいかな、ちょっと顔だけ出すだけかな、なんて思っていましたけど。

山田教育長 どちらかが先に決まっていて、後から入れる事業がその日しかどうしても入らないという事情も多分あると思っておりますけれども、今、次年度の予定を組んでいますので、できるだけ見通しを持って各課の事業も割り振りをして、大きな行事が重ならないように配慮してまいりたいと思っておりますので御了承ください。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 では、次に進みます。

○報告第3号 後援・共催について

山田教育長 報告第3号、後援・共催について資料9ページであります。御質問、御意見ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

〔「はい」の声あり〕

○報告第4号 市議会12月定例会報告について

山田教育長 続いて、報告第4号、市議会12月定例会報告についてです。本日お配りした資料をごらんください。資料No. 4であります。事務局から報告をお願いします。

太田教育総務課長 それでは資料No. 4をお願いいたします。平成29年塩尻市議会12月定例会にかかる教育委員会関係の報告になります。提出議案につきましては予算案件2件でございました。いずれも11月29日に提出されまして、去る12月19日の本会議において、原案のとおり可決されております。また報告案件2件につきましては、12月15日に受理されたものでございます。なお、予算案件につきましては本年度一般会計補正予算であり、報告案件につきましては、教育委員会自己点検・評価でございます。いずれも前回11月の定例教育委員会で説明をしておりますので、省略をさせていただきます。この後、一般質問及び委員会審査の概要につきましては、各部長から御説明申し上げます。

中野こども教育担当部長 それでは2番の代表質問、一般質問及び委員会質問の概要ということでございますけれども、12月の議会全体では代表質問6人、一般質問が6人ということで12人委員さんから御質問をいただいております。先ほども教育長から話ありましたけれども、教育委員会関係は代表が6人、一般が5人ということで、12人中11人、教育委員会関係ということで御質問いただきました。それぞれの担当部長ごとですね、代表質問から委員会審査まで一連で説明をさせていただきますので、ページ数が前後することになりますけれども、よろしく願いをいたします。

それでは、お開きをいただきまして2ページでございます。山口恵子議員の代表質問でございます。小中学校のプログラミング教育についてということで、学習指導要領の改訂についてとその内容について、それからプログラミング教育の背景と目的。それから小中学校での取り組み等について御質問をいただきました。学習指導要領の主な改定内容でございますけれども、道徳の教科化、外国語教育の早期化、教科化、それからプログラミング教育を含む情報活用能力の向上等がありますということです。それからプログラミング教育につきましては、プログラミング的思考を育成するための教育活動であり、子供たちの自立的な社会人としての自分の意図したことをよりよく表現していく力が必要になるということで、論理的思考をつくっていくという形になります。学校での事例でございますけれども、教材ソフトですとか、模型の自動車を活用してパソコンなどによって動かしてみるなどの取り組みを行っているということで、答弁をさせていただきます。

それから2番目の柴田博議員の一般質問でございますけれども、学校給食無償化の取り組みについてということでございます。学校給食の無償化、全額では難しいかもしれないが、一部補助などはどうかという御質問でございますが、昨年の6月の議会でも同じ質問をいただいております。学校給食の費用負担につきましては、学校給食法によりまして食材費を保護者負担とさせていただきます。給食費につきましては小学校では1食290円、年額ですと5万7,700円。中学校では1食330円、年額6万5,600円ということで、予算総額といたしますと3億1,900万円という状況でございます。学校施設等の教育環境の整備ということで、まだまだございますのでそちらのほうを優先したいということで、現状では給食費の無償化には困難であると。まだ今、検討段階でないという御答弁をさせていただきます。

3番目の西條富雄議員の一般質問でございます。長野県民交通災害共済についてということで、御存じのように県民交通災害共済、本市も加盟しておりますけれども、保育園から小中学生について公費負担ができないかということの御質問でございます。答弁といたしましては、公費負担とした場合にはですね、子供さんたちの場合、年間100円なものですから、おおむね70万円ということでございます。ですけれども、一つには保育園、小中学校ではその管理下の活動における災害給付の保険を既に公費負担で掛けていることがございますし、ここでの交通災害共済につきましては、あくまでも任意という保険でございますので、現状では取り組むのは困難ということでお答えをさせていただきました。

次のページ、3ページの古畑秀夫議員さんの一番下の6になります。一般質問の教育行政についての中の先ほどありましたけれども、不登校児童生徒の対応ということで、現状はどうか、要因は何か、生徒への対応はどのようにしているかという御質問でございます。不登校児童生徒は増加傾向にありますということで、占める割合でございますけれども、28年度では1.63%になっているということでございますし、近年、低学年化が進んでおまして、小学校2年生においても不登校となる児童がいる状況にあるということでございます。要因といたしましては、そこに書いてある内容などございますけれども、さまざまな要因が複雑に絡み合っているというように考えております。対応といたしましては、生徒指導担当指導主事を中心にチーム体制で学校、児童生徒、保護者への訪問、相談を行っているという御答弁をさせていただいております。

次のページをお願いしたいと思います。真ん中8番になります。中原巳年男議員の一般質問でございます。塩尻市の特徴の教育の必要性についてということで、漆器ですとかワイン・農業・木育・高ボッチなど、塩尻にはふるさとのよいところたくさんあるけれども、そういったところを子供のころから知識を身につけることが必要ではないかということで、そういった取り組みを行っているかということでございます。具体的な事例といたしまして、総合的な学習の時間におきまして、ブドウやレタスの栽培、それからカタオカザクラの挿し木、漆塗りの体験等を行っているということ、それからコミュニティ・スクールでの取り組みとして、丘中学校では松くい虫の研究を、お願いをされましてやっているということでございますし、塩尻東小学校の東っ子かるた、それから吉田小学校の吉田マスコットコンテストなどを御紹介させていただきました。

次のページの5ページでございます。西條富雄議員の一般質問のジュニアリーダー養成事業についてということで、こどもしおじりとのコラボについてということで、1つ目といたしましては10月に開催した第4回研修会、これは、えんぱー保育園になりますけれども、その成果について。それから事業を拡大して、こどもしおじりと共同開催してはどうかという御提案、御質問でございます。第4回の研修会、えんぱー保育園での参加した受講生の感想、御紹介をさせていただきました。他校の仲間との協力、それから未就学児とのかかわりを学べたこと、自分の成功体験、こんな達成感を感じた子供たちがあつたということで、成長を感じる意見がよかつたということで、事業創設の成果があつたというように考えられるということでございます。

それから、こどもしおじりとの共同開催ということでございますけれども、ジュニアリーダーを本年講座を修了したお子さんにつきましては、希望者になりますけれども、ジュニアリーダー会に登録をさせていただいて、今後、こどもしおじりへの参加なども含めて、次年度から効果的な事業推進していきたいということで御答弁をさせていただきました。

次のページをお願いしたいと思います。6ページ一番下になります。中原巳年男議員の一般質問でございます。市民1人当たりの読書日本一を目指してということで、早ね早おき朝ごはん・どくしょの成果、それから理想的な時間はどうか。朝食の調査結果はどうかという御質問でございます。子供たちには、十分な休養と睡眠とバランスのとれた食事が必要であるというお話をさせていただ

きましたし、早ね早おき朝ごはん・どくしょにつきましては、文部科学大臣賞を受賞したということでございます。それから理想的な睡眠時間ということで、小学生では9時間から11時間、中学生では8時間から10時間というふうに言われておまして、中高生におきましても11時くらいまでに就寝をすることが望ましいということでございます。朝食につきましては、朝食の喫食の調査につきましては、朝食を食べたと回答した小学生は98.5%、中学生は95.7%ということで、この数字につきましては全国、県と比較しても高い数字であったということでございます。

次のページをお願いしたいと思います。8ページ、一番上になります。中野重則議員の代表質問でございます。避難所に安心の蛇口を設置してはどうかということでございます。避難所というのは新体育館が避難所としての機能を持っておりますので、そこに安心の蛇口を設置ということでございますが、安心の蛇口というものにつきましては、いわゆる配水池からその安心の蛇口を設置する箇所まで水道管、配水管のですね、耐震化をしっかりと、地震時にもその蛇口からいつでも水が出るというものでございまして、長野県内では県の企業局において主に設置がされているというものでございます。それへの回答でございますけれども、今お話ししましたように、配水管の整備が必要でございますので、新体育館への安心の蛇口というものは、設置は困難ですという回答をさせていただきました。しかしながら、避難所としての機能ということでございますので、近くの応急の給水拠点として、郷原の配水池になりますけれども、そちらにございますので、そちらから飲料水の運搬など、関係部署と調整していきたいという答弁をさせていただきました。

次のページの5番になります。村田茂之議員の代表質問でございます。新体育館プロジェクト基本設計フェーズについてということで、市民がより多く利用できる機能は何か。維持改修まで含めたコスト低減、運営を見据えた検討はどうか。それからコスト管理、コストの見通しはどうか。基本設計者とコンストラクション・マネージャーの今後のかかわりはどうかという御質問でございます。市民がより多く利用できるということで、トレーニングルーム、それから多目的室、ボルダリングなどを設置して、また、屋外の公園機能についても体育館へ足を運ぶきっかけとなるような仕組みづくりをしたいということでございます。それから、コストの低減でございますけれども、自然光、自然通風を取り入れるということのほか、屋根や外壁の省メンテナンス化、いわゆるメンテにお金がかからないようなつくり込みになりますけれども、そういったものを検討しているということでございますし、運営実績のある者からのヒアリングをしながら、設計にそれを反映しているということでございます。事業費につきましては、現在算出を進めているということでございます。それから基本設計者につきましては、実施設計者まで意思の伝達が必要であるということ、それからコンストラクション・マネージャーにつきましては、最終段階まで採用を計画しているということでお話をさせていただいております。

それから、2枚おめくりいただいて12ページをお願いいたします。委員会審査になります。今回の委員会審査につきましては、先ほど課長から話がありましたように、補正予算の委員会審査の対象になっておりますけれども、通学区域の見直しにかかわる大門七区の住民の方へのアンケートの実施につきまして補正予算を計上させていただきました。そのことにつきまして、多くの委員さんから御質問をいただいたものでございますので、主なもののみ報告をさせていただきます。

1番の永田公由委員でございますけれども、見直しへの反対意見が多いが、その理由は何か。それから、③番の審議会の委員の意見はどのようなものか。④番のアンケートを行うというのは、見直し案に誘導するための実施という見方がされたと。それから、⑥番の希望により就学校が変更できるという部分については、答申の内容によって影響を受けるのかという御質問でございます。②の反対意見が多いが、その理由はということでございますけれども、主に小中学校の保護者の方から意見が出されておまして、30年前に西小から移ったが、また変更するのかということ。それから、

地域を二分すべきではない。それから、国道の南側だけで効果が出るとは思えないというような主な理由があるということでお話をさせていただいております。③審議会に寄せられた意見はどのようなものかということで、審議会としては、見直し案に賛成するのは寄せられた意見からは難しく、プレハブ教室利用を含めた検討が必要との考えもいただいているということでした。④のアンケートにつきましては、あくまでも判断材料の一つとしてアンケートをしたいということで、答申を受けた教育委員会としてそれも含めて判断をしていきたいということでした。それから、⑥でございますけれども、大規模校から小規模校への指定校の変更については検討をしていきたい考えがあるということでお話をさせていただきました。

次の金田興一議員さんからでございますけれども、③回収率の向上にぜひ努めてほしいということと、1月10日を締め切りにさせていただいておりますけれども、これを受けて、結果を熟慮して審議会として答申を出せるのかというところで、そんなお話もいただいております。

次の3番の山口恵子議員でございますけれども、②年末年始を挟むこともあって、このスケジュールは無理があるということで御意見をいただきました。

4番の平間正治議員でございますけれども、②結論ありきのアンケートに感ずるということで、西小に行きたいという希望を尊重すると、全市的にもほかに波及することが考えられるので、この設問については留意が必要であるという御意見をいただきました。

それから、5番目の永田公由議員ですけれども、答申を受けても教育委員会で判断するのは平成29年度ということで、スケジュールでございますけれども、平成30年度でもよいのではないかと。それから、アンケート結果が出た段階で第4回の審議会を開催し、その次に最終答申案をいただくというスケジュールになっておりますけれども、それはいささか無理があるのではないかと。第5回の審議会を設定すべきではないかというような御意見をいただいております。

次のページの7番になりますけれども、休憩を挟みまして、委員会の中で御議論をいただきました。7番の平間正治副委員長から御判断のお話をいただきました。以下の点を、福祉教育委員会として改めて要望するというので、3つございます。アンケートの提出期限の延長、10日程度延長をしてほしいということ。それから設問内容の見直し、これは先ほどの学校の選択という部分ですが、誤解が生じないように留意してほしいということ。それから、スケジュールの見直しということで、第5回の審議会を設定してもらいたいということでございますので。答弁といたしましては、そういった委員会の意見を尊重する方向で検討をさせていただくということでございます。この後の協議会の段階におきまして、本日の委員会の協議会におきまして修正をさせていただいたアンケートの内容についてまた御報告をさせていただきます。

それから次のページ、これは山口恵子議員からでございますけれども、補正予算の中で小学校の入学用品の就学援助費を3月に前倒しで今回支給をさせていただきたいということで補正予算を組んでおりまして、それをもうちょっと早められないかという御質問でございますけれども、市内の小学校への就学意思の確認をした上での対応になるものですから、最短でも3月の上旬の支給となるということで御答弁をさせていただきました。私からは以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。

中野生涯学習担当部長 私からは生涯学習関係、それから市民交流センターの関係について御報告いたします。少しさかのぼっていただいて6ページをごらんいただきたいと思います。6ページの1番、2番、それから次ページの4番につきましては、今回の組織改編の中での男女共同参画・人権課を男女共同参画・若者サポート課にし、そこに若者サポート係を設けるということで提案されていまして、その内容についての御質問でございます。

まず、丸山寿子議員でございますけれども、1番ですけれども、対象となる人について、どのよう

に定義づけされているかということ。それから、どのように就労支援に結びつけていくのかという御質問でございます。対象としているのは、ニートあるいはひきこもりでございます。それぞれ年齢を、支援対象を40歳未満までを想定しております。現在行っております元気っ子応援事業の対象が18歳ということですので、事業を始めてから、最初に事業として始まった対象者が高校1年生になってきているという状況の中で、あと2年すると18歳を超えてしまう、それ以降について引き続き支援ができるように 若者サポート係を設けまして対応していきますとお答えをしております。

次に就労支援をどこまでやるのかということ、また、どのような連携をとるのかということでございます。このことにつきましては、現在は県で子ども・若者サポートネットという組織をつくっております。そこには現在、それぞれ個別に市としても連携・支援をして行っています若者サポートステーション、あるいはサポートセンター、ジョブカフェ信州、生活就労支援センターまいさぼ等がございますけれども、それらの団体と連携をして行っているということで、相談業務についても既存の男女共同参画課にある女性相談窓口と併用しまして進めていきたいということをお答えをしております。

次のページをお願いします。9ページのほうになりますけれども4番、牧野直樹議員の御質問で、塩尻市営野球場につきまして、施設的にはもう52年も経過して古くなっているという状況の中で、周辺が宅地化をしてきている、あるいは保育所ができたということによる周辺への影響があるということもございます。市営球場についてぜひ建てかえということを検討できないかという御質問でございます。このことにつきましては、現在新体育館の建築に向けた事業に取り組んでいるという状況もございますので、今後施設の状況等も踏まえて、様子を見ながら財政的な部分の検討を含めて研究をしていく必要があるという答弁をさせていただいております。

11ページの1番、中原巳年男議員の質問です。これは先ほどの6ページのですね、3番の早寝・早起き・朝ごはん・読書の成果の引き続きということでございます。この中で読書についての現状を御質問がありましたので、読書数について少し現状を報告いたしました。図書館における市民1人あたりの貸出冊数につきましては、平成28年度実績で9.7冊という状況でございます。これは県内の19市中1位でございます。図書館のある55市町村の中では7番目になっております。また、全国的な比較で見ますと、平成27年度実績になるのですが、全国の人口6万以上8万未満の市区では全国で第8位という高い順位でございます。いずれにしても、子供あるいは一般も含めた読書推進に取り組んでいくということで、本の寺子屋など多様な事業展開をしていきますという答弁をしております。

一番最後のページ、17ページでございます。17ページ、山口恵子議員の、これは2回目の質問であったわけですが、持続可能な開発目標ということで、SDGsの目標5にジェンダー平等についてあるけれども、塩尻市の対応はどのような状況かという御質問がございまして、このことについては、現状とすれば平成22年度、ちょっと古いデータでございますけれども、平成22年度の34.6%という、これは、男は仕事、女は家庭等の性別の役割の固定があるのかどうかという意識調査については、平成22年が34.6%、26年が37.3%ということで、向上は図られているけれどもまだまだ高い状況にはなっていないということで、さらにこういった意識改革の必要性があるということをお答えしております。以上でございます。

山田教育長 ありがとうございます。今の説明について御質問、御意見ありましたらお願いします。よろしいでしょうか。

小澤教育長職務代理者 通学区の問題です。福祉教育委員会で委員会として改めて要望事項が寄せられたということでもあります。中を見ると、この教育委員会でも話されたことが議会のほうでも話さ

れたんだなあ、そんなことを思います。それで、審議会は計4回です。そこで、ひよっとすると、あと1回必要かとも思います。これは無理かどうか。そこら辺のところはいかがでしょう。とにかく切っちゃう姿勢か、あるいは柔軟な幅を持たせる姿勢か。それはいかがでしょう。

太田教育総務課長 当初、事務局としましては、4回の審議の中で答申をいただけるだろうということで進めてまいったところでございますが、なかなか審議会の委員さん方も判断が難しい状況がある中で、今回アンケートを実施させていただき、その結果も判断材料としてしっかりと審議させていただきたいというところで、もう1回延長してもらいたいという御意見でございました。今年度中に開催できるのも5回が多分精一杯なところではないかなと考えております。できる限りは5回目で最終という形をとらせていただきたいと思いますところですが、次回第4回の進みぐあい等もございますので、進捗状況を見ながら、また委員さん方と相談という形になろうかと思っておりますが、当面、事務局側とすれば、5回で最終をとということで進めてまいりたい考えでございます。以上です。

山田教育長 いいですか。

小澤教育長職務代理者 あまり引きずると、その引きずった裏には何かあるかなんてことを勘ぐられる向きもありますので、決めるところはきちっと線を引いてけじめをつけたほうがいいのかと思います。

それで、もう1つですけれども、七区を分割しない、要するに分区しないということは決まっているから、それを尊重すると、こういうことが書かれているわけです。質問事項のなか、一番思うのは、答申のいかんにかかわらず、あなたは西小へ行きたければ行けるといようなことが誘導につながるということであります。この分区云々よりも、七区の民意を分断する、これが一番嫌なことであります。それを行政がそそのかすというようになっていっちゃうと一番怖いことだと思うわけでありますので、そこら辺の民意の分断というところにうんと気を使っていただければありがたいと、そんなことを思います。

山田教育長 ありがとうございます。

石井委員 私のほうからは、この問題を検討するには、地元の議員がかかわりすぎてやしないかと。ほかの議員はいなくて地元の議員だけでとなると、これは総体的なこと考えないで、塩尻市全体を眺めた場合にどうするべきかという御意見が少ないんじゃないかなあというふうに私は思っています。そういう面では、地域の議員がもちろん必要ですけれども、あとは一般に解決できるような人たちも入っていたほうがよろしかったんじゃないかなあというふうに考えました。地元の票というのが意見に出てしまっているんじゃないかなあというふうに、この間傍聴をさせていただいたときに、そんなぐあいに考えました。それはそれでいいんですけど、やっぱりそうじゃないと、じゃあこっちもプレハブつくれ、こっちもプレハブですって、中途半端なものがいっぱいできるようになる。本当に行政でもって考えなきゃいけないことが考えていないんじゃないかなあというふうに思いましたので一言申し上げたい。

それからもう1点、学校の敷地内に植わっている樹木はどちらがどういうぐあいに管理をしていくのが正当ですか。そこら辺をお聞きしたい。

太田教育総務課長 学校の樹木の管理につきましては、学校敷地内であれば当然教育委員会、教育総務課で管理していくものになりますので、伸びきって手入れが必要であったり伐採が必要であれば、計画的にこちらで予算化しながら管理していくことになります。現場の学校の先生方の御意見もありますので、学校の要望とあわせて御意見を聞きながら現在も進めている状況です。

石井委員 そうであるならば、地域の意見も取り上げてもらいたいと思うんですけれども、これからますますもう10年たつと、日本中の1,000メートル以下の松の木は全部減びてしまうというような話がありますけれども、やっぱり松の木の手入れとか注射とか、あるいはまた、洗馬のかぶり

の松、これが、私は松の虫にやられるということは、それはしょうがないことだと思うんだけど、それも防がなきゃいけないことは事実です。だけどあの門かぶりの松が、枝が折れた場合に校長が首になるとか、そんなことはあり得ないことなんだと思いますけども、そういう風潮の中でもって、小学校へ来ている校長先生の、このところ3年ばかり女性です。雪が降ると、旦那さんまで一緒に来て雪を落としている。一晩中そこで寝泊まりしているというような状態を聞いた場合に、果たしてそんなことをやらせていいのかどうかと、そういうことを私は懸念しているんですけども、どういふぐあいにお考えですか。

太田教育総務課長 まず、松の木の手入れの関係につきましては、松枯れが心配される松については、丘中を例にとりますと、薬剤の注入で対応している部分がございます。ただ、洗馬小学校の松につきましては、かなり年をとっていることもございまして、薬剤を入れることによって枯れる可能性も心配されますので、状況を見ながら対応させていただきたいと思っております。お話のあった校長先生が、松を危惧されて寝泊まりしているという話でございしますが、これは教育委員会では、そうしろうとしたことも一切ございませんし、校長先生の御判断になるかとは思いますが、そういった、枝が落ちたらいけないとかという風潮が、いつどこからそういう話が広がったかも私もわかりませんが、校長先生も松が折れたからといって職を失うわけではございませんので、そんな極端な考え方を引き継ぎでもし行われているのであれば、おかしいなと私は考えます。もし、そんなことがあるようであれば、校長先生には私のほうからまたお話をさせていただけたらと思っております。以上でございます。

石井委員 そういう事実があってもそれは、そういった考え方はおかしいということではいいわけですか。

太田教育総務課長 松の状態把握が必要であります。今の予算の範囲内で手当てができるようであれば、検討していきたいと考えます。今後、学校長と相談し、状況を聞いて対応させていただきたいと思っております。

それから、通学区の審議会の議員さんのかかわりですけれども、確かにそういった考え方も一つにはあるかなと思っておりますが、今、通学区の審議会の中の議論を見ましても直接そこに関係する方以外は、余り関心がないという感じの課題にもあると思っております。しかし、地元の議員さんは、地元の皆さんのいろんなお話をじかに聞いていらっしゃると思いますので、そんなところからの御意見、それからお考えを御助言等いただければと考えております。それから、市全体で考えていくべきではないかとの意見も審議会の中でいただいておりますけれども、今まで行政区で通学区としている中で、今後、全市的にそれを考えていくということも確かに必要だとは思いますが、現時点ではそこまでの範囲を広げて議論を深めていくということについては、私どものしっかりした心構えもできておりませんし、体制づくりも多分それをやるとなれば、相当なものが必要だと思っております。今間近に迫っている区画整理ができて、そこへ人口が増えて桔梗小学校が過大になり、西小学校が小規模になっていくという現状を見ながら、今回の通学区の変更という形で、狭い範囲ではございますけれども、そういったことで検討をさせていただいたということではございますので、御理解いただければと思います。

石井委員 理解はできるんですけども、会議が終わると、保護者が委員のところへ行って何だかんだ言っているわけですね。やっぱりそういうところを見るとね、我田引水じゃないけども、そういう懸念もあるかなあというふうに私は思っています。なるべくそういうことのないように公平にやってもらいたいというふうに私は思っていますのでよろしくお願ひします。

山田教育長 議会の報告についてあとはよろしいですか。いいですか。

〔「はい」の声あり〕

4 議事

5 その他

○その他第1号 平成30年度教育委員会関係予算要求主要事業について<期間限定非公開>

山田教育長 続きまして、その他第1号、平成30年度教育委員会関係予算要求主要事業についてを議題といたします。この件につきましては、内部資料を取り扱うために非公開といたします。御異議ありませんか。

〔「はい」の声あり〕

山田教育長 それでは、異議なしと認めて非公開として続けます。

【非公開部分削除】

山田教育長 それでは、ここはよろしいでしょうか。

それではその他、事務局のほうからありましたらお願いします。

山崎市民活動担当課長 1月25日に新年会を開催いたします。委員の皆さんは、欠席の場合のみ18日までに私まで御連絡ください。事務局職員の皆さんは、グループウェアの回覧板に書き込みをお願いします。

山田教育長 新年の楽しみにしておきたいと思います。ほかには事務局、よろしいでしょうか。委員の皆さんからはよろしいでしょうか。

6 閉会

山田教育長 それでは、本日予定されていた案件全て終了いたしました。以上をもちまして、12月定例教育委員会を閉会といたします。ありがとうございました。

○ 午後3時51分に閉会する。

以上

平成30年1月25日

署名

教 育 長

同職務代理者

委 員

委 員

委 員

記 録 職 員 教 育 総 務 課
教 育 企 画 係 長
